

## 令和5年度第1回 愛西市子ども子育て会議 会議録（概要）

会 議 名	令和5年度第1回 愛西市子ども子育て会議
開 催 日 時	令和5年8月31日（木）午後3時から午後4時15分まで
開 催 場 所	愛西市役所 南館 会議室2-5
出 席 者	別紙のとおり
欠 席 者	難波知里委員、青木夕紀子委員
議 事 等	<p>●議事</p> <p>(1) 愛西市子ども・子育て支援事業計画について</p> <p>(2) 保育園等の状況について</p>
公開/非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人
会 議 資 料	<p>資料1 愛西市子ども子育て会議設置要綱</p> <p>資料2 第3期愛西市子ども・子育て支援事業計画（仮称）のためのニーズ調査について、スケジュール案</p> <p>資料3-1 前回のアンケート調査票（就学前児童保護者用）</p> <p>資料3-2 前回のアンケート調査票（就学児童保護者用）</p> <p>資料4 保育園等の状況について</p> <p>資料5 佐織保育園における今後の在り方について</p>
審 議 経 過	別紙のとおり

## 愛西市子ども子育て会議委員

役 職	氏 名	備 考
委員	吉村 譲	
〃	佐藤 言葉	
〃	難波 知里	欠席
〃	堀田 真吾	
〃	山北 茂代	
〃	吉川 哲也	
〃	青木 夕紀子	欠席
〃	安達 和枝	
〃	神田 倫代	
〃	鈴木 幸子	
〃	小塚 陽子	
〃	山内 清乃	
〃	寺本 英予	

## 事務局

役 職	氏 名	備 考
健康子ども部長	清水 栄利子	
保険福祉部参事	高松 潤也	
子育て支援課長	水野 裕公	
子育て支援課 指導保育士	横江 一実	
子育て支援課 課長補佐	佐藤 安成	
子育て支援課 課長補佐	渡邊 竜樹	
子育て支援課 主任	奥田 拓	
Next-i 株式会社	菅沼 剛樹	

## 審議経過

発言者	内容（概要）
事務局	<p>開会 この会議については、公開となっているが、本日の傍聴はなし。</p> <p>次第「2. 会長及び副会長の選出について」に移らせていただきます。 資料1、 愛西市子ども子育て会議設置要綱をご覧ください。 第5条第2項に「会長は、委員の互選により選出し、副会長は会長が委員の中から指名する」と記載されております。この規定に基づきまして、委員の皆様の互選により、会長の選出をお願いします。</p>
委員	<p>会長を吉村委員にお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>皆様と一緒に愛西市の子どもたちが笑顔でいられる町づくりをしていきたいと思います。 副会長には、本日ご都合で欠席されていますが難波委員にお願いしたいと思います。</p> <p>（議長は会長になり議事進行）</p>
会長	<p>協議事項（1）の「愛西市子ども・子育て支援事業計画について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料2、資料3-1、資料3-2に基づき説明</p>
会長	<p>委員の皆様から意見、質問はありますか。</p>
委員	<p>アンケートは紙媒体だけか。</p>
事務局	<p>今回は、QRコードを使って回答する方法など、紙媒体だけでない方法を検討している。</p>
会長	<p>前回の調査項目を踏まえた内容で考えているのか。</p>
事務局	<p>ニーズ量調査は、国から示される指針を参考に作成するが、現段階でまだ示されていないため、イメージとして前回の調査票を示した。今後は、指針に沿って見直しがある部分は質問事項の変更を加えながら作成する予定である。</p>
会長	<p>前回と同じような形で作成した方が、中身の企画やコストにおいてもや</p>

	りやすいと考えるが、そういうことも踏まえて考えているのか。
事務局	そのとおりである。
委員	調査は全世帯に行うものか。
事務局	抽出で行う。前はそれぞれ1,500人を対象に行ったが、今回は今のところ1,000人を対象とする予定である。今回の対象者は、前回通りではなく、国の指針に基づいて、必要な調査を行う予定である。
委員	愛西市全世帯のうち何世帯調べるのが適当であるのか。前回の調査はそれぞれ1,500人を対象に実施し、回収できたのがそのうち708名であり半分以下の数字ということになる。今回はQRコードも用いて実施するとなると変わってくると思うが。
事務局	今回は紙だけでなく、新しい媒体を取り入れ、できるだけ前回より回収率を高くしていきたい。
会長	協議事項(2)「保育園等の状況について」事務局より説明をお願いします。
事務局	資料4、資料5に基づき説明
会長	委員の皆様から意見、質問はありますか。
委員	以前、佐織保育園に自分の子供が通園していたが、その時から古い園であり、使いにくい部分もあった。徐々に子供たちが減っていく中で、保育の質を求める保護者も多いと思う。周りにある保育園に徐々に移行して行って、6年後、7年後を目指して、保護者に他の園を選択していくよう促していく方法もあると思う。
委員	築60年経過した建物を修繕あるいは建替えるとなると、莫大な費用になると思う。これから乳幼児の人口が減っていくという事実を考えると、修繕あるいは建替えというのは現実的ではないと思う。市の財源も限りがあることははっきりしているので、国庫補助もなく全額市の負担で行わなければならないことは、やはり現実として受けとめていかなければならないと思う。また、実際にいま保育園に通っている園児がいるわけなので、それらの園児や、これから保育園に入ろうとする地元の子どもや保護者が困らないような方法が示されていかなければならないと思う。もう1点は、やはり公立と私立のバランスが非常に大事だと思う。公立を作ると、当然そちらに園児が流れ、私立の運営が非常に厳しくなる。充足率を見ても随分下がってしまうので、やはり民間の活力を活用しながら、需要率をみな

<p>会長</p>	<p>がら考えていくことが大事だと思う。したがって私は、佐織保育園については、修繕あるいは建替えということは全く視野にない。</p> <p>この地域の他の民間保育園が幼保連携型認定こども園に移行し、建替えあるいは増改築する予定である旨の説明が事務局からあったが、そういう園は、保育の中身や環境をさらに整備をしていこうという意欲のある園だと考えていいのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>より快適な保育環境を提供しようという意欲のある園だと考えている。今でも、公立私立にかかわらずどの保育施設においても、保育指針に基づいて運営されているが、ハード面でこれら民間施設の環境整備が進んでいくと考えている。定員の面でも拡充されていく見込みである。</p>
<p>委員</p>	<p>人口減少が来ていることははっきりわかっている中、方向性として市はどう考えているのか。公立と私立では需要が別であり、公立に入りたい人もいると思うが、昔の立田地区や八開地区で言うと、もともと私立しかないで、なんとかなるかと思う。数値を見ると、どう考えても、これから人口推移で1割減ることがわかるので、佐織保育園の分は他の民間施設で十分カバーできると思う。名古屋市を例にすれば、あれだけ待機児童がいる中、公立園は基本的に民間移管か閉園にしている。公立3園を1園に統合して民間移管し、民間移管される場合も、名古屋市で5年以上経営している園しか参入できないなど、厳しくやっている。名古屋市では待機児童がある地域もあり、園舎を建てて欲しいというところもあるが、坪単価100万円以上するところか、あとはもうすでに5法人ほど手を挙げて挑戦したが住民反対で建てられない地域しか残っていない現状であり、名古屋市でも定員割れが出てきている状況だ。建築費のことを言うと、私立がやると今のところ国の補助金が使えるので、4分の1を市から出してもらい、国が半分出して、園の負担は4分の1である。公立で作ると、100%市の負担である。60人定員としても、最近の価格でいえば3億円から5億円ぐらいかかると思う。負担が4分の1でいいのか、全部でいいのかというと、やはり全部は難しいと思う。愛西市の人口が減っているということは、税収も落ちているということであり、公立園としての建替えは難しいと思う。ただし、新しい園舎ができたからといってみんなが流れていくわけではなく、流れがちではあるものの、保護者はやはり保育の内容や教育の内容を見て選ぶと思う。いずれにしても現状を見る限り、佐織保育園を無くしても大丈夫という数字だと思う。そういう現状を踏まえて、市はどういうふうに思っているのかを教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>特に佐織地区の保育園は、民間が中心になって保育を提供している現状</p>

	<p>がある。その中で、運営面を考えると、それなりの園児数を確保して運営していかなければならない。新しい園ができるとそちらに園児が流れることも考えられ、他の民間園の運営を圧迫することにもなりかねない。町方保育園のように経営的に難しくなってくることも想定できる。民間が安定的に保育を提供できるようにすることも市は考えなければならない。保育の途中でどこかの民間園が閉じることになり、その園児が途中で別の園に移るようなことにならないようにしたい。そういうことも踏まえて、どうしたらいいかを委員に伺っている。</p>
事務局	<p>これまでに保育園の先生や保育協会の方、またこの子ども子育て会議などで意見を伺ってきたところである。市としては、しっかりとした保育の基盤を作っていきたいと考えている。また、保育園はどこ地域でも通うことのできるの、市域全体でも考えていかなければならない。佐屋地区にも多くの園があり、市内だけでなく市外にも選択肢がある中で、少子化の中で公立を建替えるということには難しさがあると感じている。また、建物の期限があることなどを総合的に判断して、今後の方向性をこの会議での意見をもとに決めていきたい。市としても、他の場所への移転の可能性も探したがよい方策がなかった。いろいろな選択肢を考えた上で、この現状からすると、難しいと考えている。</p>
委員	<p>今は育休というのが発達していて、2年まで園に入れたい証明があれば、雇用保険が出るようになってきている。0歳児、1歳児は入園に波がある。出生数からある程度想像はつくが、出生数があるからといって入園するとは限らず、引っ越しでの影響もある。園児の取り合いという話は、保育業界でよくあるが、そういう状況を気づいている園は、先を見据えて中身を考えているところもある。胡坐をかいているところまで救わなくてはならないのかとは思いますが、市としては全部の園を豊かにしていこうという考えだと思う。人口推移を見ればどう見ても、佐織保育園が無くなっても大丈夫としか言えない。</p>
委員	<p>この資料にある充足率を見る限り佐織保育園を無くしても大丈夫だと受けとめているが、1号から3号まですべてあわせた定員での充足率なので、0歳児や1歳児が、溢れる可能性もあるかと思う。保護者としては子供が毎日とにかく笑顔で元気に登園して欲しいというのが一番初めにくると思う。7年後に60年が経過するということで、老朽化の観点で非常に不安な部分がある。佐織保育園に通わせている保護者や園児、先生方に対する説明はまだしていないのか。</p>
事務局	<p>数字の元となっているのは、それぞれの号での見込みを合算して出している。人口推移の比率での試算であり、あくまでも見込みであるが、試算</p>

委員	<p>した限りでは、どこかの園には充足できる。説明はまだ行っていないが、もし今後、佐織保育園を閉園する方針になれば、地元の方や、そこで働いている方、保護者には、当然説明が必要と考えている。</p> <p>佐織保育園がなくなった場合、草平保育園に行こうとすると線路を越えなければならない。勝幡さくら園に行こうとすると川を越えなければいけない。そこは弊害があると思う。佐織保育園を残してほしいが、この定員をみると存続は無理と思うので、早めに切りつけて、いずれ閉園することを早めに伝えて運営してもらえば、理解を得られると思う。諏訪幼稚園はヨコミネ式で独特なので、賛成派や反対派が出ると思う。周りの園を見に行ってもらおうよう促すことは、早めにしてもらった方がいい。民間の町方保育園はいい園だったので無くなるのはショックだ。</p>
会長	<p>委員の意見を聞いていて、佐織保育園がなくなるということについては仕方がないというような方向と思う。それにあたっては、地元の人や、園児、その保護者、これから入ろうと思っている人たち、そういう方々に対してしっかり説明と理解をしてもらい、佐織保育園がなくなるにあたっての準備をしっかりしていく、というのが今日の話かと思う。それでよろしいか。</p>
委員	<p>(異議なしの声あり)</p>
会長	<p>今後市がこれを進めていくにあたっては、今日出された意見を十分に理解して進めていってもらいたい。</p>
事務局	<p>佐織保育園については、ここで出た方向性で今後話をしていきたい。</p>
会長	<p>3. その他について何か事務局から報告等ありますか。</p>
事務局	<p>次回は、10月31日火曜日の午後2時からでお願いしたい。次回には、子ども子育て計画ニーズ調査の案を提示できればと考えているが、国から指針の通知が来ていないので、間に合わない可能性もある。その場合は、郵送での案の報告も考えている。</p>
会長	<p>それでは、今回予定しておりました議題は以上でございます。皆さん、お忙しい中、ありがとうございます。これをもちまして第1回愛西市子ども子育て会議を終了します。</p>